

第 5 回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会会議録

日時：令和 3 年 1 0 月 7 日（木）

1 9 : 0 0 ~ 2 0 : 0 5

場所：紀の川市役所 5 階 5 0 1 会議室

◎開会

○事務局 定刻となりました。皆さま、こんばんは。

昼間お疲れのところ第 5 回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。

はじめに、教育委員会附属機関の組織及び運営に関する基準を定める規則第 4 条第 2 項の規定により、過半数の委員の出席をいただいておりますのでこの会が成立していることをご報告いたします。

それでは、第 5 回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会を開催いたします。

梅本委員につきましては所用のため欠席の報告をいただいております。

まず、お手元の資料のご確認をお願いいたします。

本日使用いたします資料は、1 枚ものの検討委員会次第。次に、資料 1、第 4 回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会会議録について。資料 2、学校のあり方に関するアンケート結果追加資料となっております。

皆さん、ご確認よろしいですか。

それでは、次第に沿って進めてまいります。

◎会長あいさつ

○事務局 はじめに、会長から挨拶を申し上げます。

○会長 改めまして皆さん、こんばんは。

ご多用のところご参集くださいますありがとうございます。

この会も 5 回目をむかえまして前回アンケート調査の結果等も出ましたので、かなり革新的なご議論をいただく段階に入っているかと思えます。是非今日も奇譚のないご意見をいただきまして、この委員会の役割りを果たせるようご協力いただきたいと思います。よろしく願い申し上げます。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、議題に入る前に委員皆さまに再度お願い申し上げます。

ご意見・ご質問等のある場合には、前のマイクのボタンを押していただきますと、マイク周りが赤くなりますので、確認後発言のほうよろしくお願ひします。発言を終える場合にはもう一度ボタンを押しますと、マイク周りの赤のランプが消えますのでマイクが切れるようになっています。

それと、委員皆さまの貴重なお意見等を会議録として残す必要があるため、会議の内容を録音させていただいておりますが、会議録につきましてはホームページ等で公表となりますので、委員の皆さまの個人名を記載せず誰の意見であるかは特定できないようにする旨を再度申し添えますので、奇譚のないご意見をいただければと思います。

ここからは会長により進行のほうをよろしくお願ひします。

◎第4回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会会議録について

○会長 ありがとうございます。

では、今日の会議よろしくお願ひ申し上げます。

今日ご相談申し上げたいことは、その他を含めまして4つの議題がございます。

では、まず最初に、資料1、第4回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会会議録の説明を事務局から説明していただきます。

よろしくお願ひいたします。

○事務局 第4回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会の会議内容について簡単に振り返りをさせていただきますと、アンケート結果やその分析を説明させていただき、その後に皆さまから貴重なお意見等をいただいております。

そのご意見の中には、小規模校の意見が全体の結果には反映されにくいと、地域や学校ごとの結果が分かる資料であるとか、他の自治体で行った同様のアンケート結果など追加資料のご要望をいただいたところでございます。また、今後の児童・生徒の動向などを市民の方に広く広報していくべきではないかというご意見もいただいております。

この学校ごとの結果が分かる資料につきましては、この会議録と一緒に皆さま方にお送りさせていただいております。

今日時点でございますが、この会議録について皆さま方から事務局のほうにご意見とご質問等いただいておりますが、何かご意見等ございましたらこの場でのご発言をよろしくお願ひしたいと思ひます。

簡単ですが以上となります。

○会長 ありがとうございます。

ただ今資料1の第4回紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会会議録について説明いただきました。

もう既にご覧になっていただいていると思いますが、ご指摘等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(発言するものなし)

- 会長　　そうしましたら、前回のこの会議録につきましてはご承認いただいたものとさせていただきます。

◎「学校のあり方に関するアンケート調査結果」追加資料について

- 会長　　では、議題 2、「学校のあり方に関するアンケート調査結果」の追加資料について事務局から説明をしていただきます。

　　お願いします。

- 事務局　　私から前回の会議で皆さまから要望のありました追加の資料の説明をいたします。

　　資料につきましては 4 種類準備をしております。1 つずつ説明させていただきます。

　　まず、クロス集計ということで横長の厚めの資料ですけれども、保護者用と市民用を説明いたしますがご準備よろしいでしょうか。

　　これにつきましては、事前に郵送をいたしておりまして既にご覧になっていただいているかもしれませんが、簡単に見方だけ再度ご説明いたします。

　　保護者用をご準備いただき、15 ページをお願いいたします。

　　例として 1 つだけご説明いたします。一番関心のある問 15、適正規模をするほうがいいのか、しないほうがいいのかという問いのところをご覧ください。

　　左側のほうに問 15 のことが書いてあるのですけれども、一番左に学校ごとに記載をしております。その学校の名前の一番上に全体というのが書かれておまして、この数値が報告書に上がっている数値なんですけれども、学校単位でその数値を知りたいということでしたのでこの資料を活用いたします。

　　例えば、池田小学校ですけれども、池田小学校を見ていただきますとその右に全体として 361 名の方の回答があり、割合としては 100%であったということで 2 段になっております。そのもう一つ右のほうが適正配置検討するほうがよいというふうに答えていただいた方 138 名、割合にして 38.2%となっております。もう一つ右側に現状維持のほうが良いというふうに回答された方が 218 名おり、その割合が 60%ということになっております。後一番右側が無回答で 5 人の方がいましたと、そういうふうな見方になります。

　　後もう 1 個、真ん中より下に麻生津小学校がありますけれども、こちらにつきましては全体で 27 名の方が回答していただいて、その内の 21 名、割合にして 77%ぐらいが検討するほうがよいと、6 名の方がそのままがいいよと、そういうふうな感じになっており

ます。

これを見ますと、比較的規模が大きめの学校については現状維持のほうが若干割合が高かったのかなど。規模が比較的小さい学校については見直したほうがいいのではないのかなというような、そのような傾向が表れておりました。

後、同じようにもう一つの市民用のアンケートでも、もう一つの冊子ですけれども、それについても14ページに同じ設問があります。全体の割合としては若干市民アンケートのほうが検討する、しないが拮抗してるわけですけれども、内訳を見ますと、粉河地区のほうで検討したほうがいいのではないかという市民の方が若干多かったのかなというふうになっております。

このようにして他の設問も学校ごとの回答の内容を見ていただけるとと思います。

続きまして、義務教育学校の設置のこれからの動向を知りたいというご意見がありましたので、横長の上のほうに黒帯で「小中一貫教育の導入状況調査について」という資料を配布しております。

これがちょっと古いのですけれども2番の調査時点が平成29年3月1日ということで、平成28年度末にこれは文部科学省が実施した調査ですけれども。この義務教育学校の制度が28年度からスタートしたので、その時に28年度の27年度末と28年度末に2年続けてこういった調査を行っているのです、ちょっとこれ以上新しいもの無かったので今回これを抜粋して配布しております。ですので、右下のほうのページ数が飛んでおりますけれども、全体としてはもうちょっとボリュームのある資料となっております。

1枚めくっていただきますと、その小中一貫教育に関する制度の内容について簡単に説明しております、大きく分けて左側のピンクの義務教育学校と緑の小中一貫型の小学校・中学校と、こういうふうなスタイルがあるということを説明しております。

もう1枚めくっていただきますと、平成29年度における義務教育学校、それから小中一貫型小中学校の設置数、予定も含むんですけれどもその時の時点でだいたいどれぐらいの数があったのかということで、義務教育学校については48校、小中一貫型については253件あったということです。

今後の推移といたしましてもう1枚めくっていただいて、資料でいうと14ページになるのですけれどもオレンジ色のグラフについて、制度ができた28年度、それから29、30と3年間でだいたい設置するところは一気にしたという感じで、その後少しずつ設置していく予定というような調査結果になっております。

もう1枚めくっていただきまして、今度は併設型のほうにつきましてもだいたい同じような感じで、最初の3年間で大体設置して、それから徐々に増えていくという感じがです。今現在の状況はまだ把握はしていないのですけれども、傾向としては他の自治体の取り組みを注視しながら、この小中一貫校というのは徐々に増えていくのかなというふうな報告を受けております。

これが2点目です。

次に、他の自治体の適正規模のアンケートの結果はどうだったのかというようなこともありましたので、今度は縦長の「他団体の報告書（抜粋）」という資料、ちょっと簡単なんですけども配布いたしております。

これはいくつかの自治体の報告書をサーベイリサーチさんにピックアップしていただいて、その中身はちょっとボリュームがありましたのでこれも抜粋しております。

3団体付けております。厚木市、それから角田市、海津市となっております。厚木市につきましては規模が大きいのですけれども、その他団体については紀の川市よりは人口規模は小さいところとなっております。

そういった規模を念頭に置きつつ1枚めくっていただきまして、まず厚木市のアンケート調査ですけれども、表紙がございましてもう1枚おめくりいただきますと11ページになります。

こちら上のほうが小学校における1学年当たりの学級数はどのくらいがいいのかということで、この太枠で囲ってあるところが一番多いところですが、こちらにつきましては3学級。全体としてもそうですし、保護者の回答、それから教職員の回答につきましても3学級がいいと。ただ、この厚木市については規模が大きいので、紀の川市では2学級というところが回答多かったので、規模の違いから3学級が適しているということになっております。

下のほうが中学校ですけれども、こちらにつきましては4学級ということになっております。

1学級当たりの人数という調査につきましては、この厚木市のほうは行っておりませんでしたのでここには付けておりません。

参考に右側のほうですけれども、真ん中の(12)番、これが通学時間ですけれども、どのくらいがいいのかということで小学校については30分未満というのが一番多くて、中学校についても30分未満というのがいいのかなというような結果になっております。

紀の川市については時間ではなくて距離でアンケートをとっているのですけれども、参考に付けさせていただきます。

次めくっていただきまして、角田市になるのですけれども、隣の7ページでこちら小学校での1つの学年の学級数については2、3学級程度がいいのではないかという回答が一番多かったという結果になっております。

次めくっていただきまして、今度小学校での1学級当たりの児童数については、やはり本市と同じように一番多いのが25人程度、それから紫の30人程度、赤の20人程度ということで、だいたい同じような感じになっております。

隣のページの11ページについては中学校のほうですけれども、こちらについても2、3学級程度という感じです。

次のページを見ていただきまして、今度は1学級当たりの生徒数、これにつきましてもやはり同じような傾向で30人ぐらい、それから25人ぐらいというふうになっており

ます。

後、25 ページ、隣の右側の表ですけれども、小学校の児童数が減少した場合にどのようにするのが望ましいかというところで、真ん中の緑の棒が 42%ということで一番多いのですけれども、これは通学区域を見直して適正な児童数を確保する。それでも駄目な場合は学校を統合するというような回答になっております。

次の 1 枚をめくっていただいて 27 ページ、こちらは中学校を調査しているのですけれども、この回答内容も小学校と同じとなっております。

後、隣の右の 29 ページなのですけれども、学校の適正規模適正配置を検討する上で配慮すべき点ということで、一番多かったのが赤で約 4 割の方が回答しているのですけれども、これも本市と同じように児童・生徒の通学とその安全ということで、やっぱりこの通学の距離、方法、時間、こういったものが気にされいてる方が多いということになっております。

1 枚めくっていただきまして最後、海津市ですけれども、こちらにつきましてはタイトルを見ていただきますと小学校の適正規模に関するアンケート調査ということで、小学生を対象にしているので中学校のことについては聞かれてはないんですけれども、参考に付けております。

隣の (12) ページの一番上に問 4 ということで、1 学年当たりの望ましいと思う学級数ですけれども、圧倒的に 2 学級が多く、次いで 3 学級となっております。

次のページを見ていただきまして 15 ページですけれども、望ましいと思う 1 クラス当たりの児童数、これにつきましても 21 から 30 ということで本市と同じような結果が出ております。

ちょっと駆け足でしたけれども他の団体のアンケート調査の結果報告を説明させていただきました。

最後に、「紀の川市立小学校における普通学級数・児童数」という横長の推計ですけれども、真ん中に青色塗ってあるような表です。今後の児童・生徒数を表したものなんですけど、この表につきましてはこの委員会の一番最初の会議の時にもお配りはしているので、ちょっと時間が経ってございましたんで、最新の 5 月 1 日の値に置き換えて再度表を作り直しております。

真ん中の青色で塗ってある部分というのが、下のほうに書いているのですけれども複式学級が複数 2 つ以上あるという学校で、既に川原、鞆渕、上名手、麻生津というのはあるのですけれども、令和 8 年度以降に黄色の部分が発生してきておりまして、これが複式学級が 1 クラス発生ということで竜門、それから調月、東貴志が複式学級が出てくるであろうという表となっております。

全体といたしましては、令和 3 年度で小学校全体として 2,655 名の児童に対して、令和 9 年度では 2,258 名ということで約 400 名減少するというふうになっております。

次のページに中学校の推計ですけれども、こちらについては鞆渕中学校しか複式学級

はないということになっております。全体の人数については、令和 3 年度で 1,394 に対して令和 9 年度で 1,363 ということで、そこまで大きな減少ではないのですが、ただ小学生が今後減ってくるということは当然中学生も減ってくるということで、この先は減っていくということになっております。

簡単ですが追加資料の説明を終わらせていただきます。

○会長 ありがとうございます。

前回のアンケートの結果をご覧になっていただきまして、追加の情報あるいはご不明な点ということにつきましてご指摘をいただきまして、今日このような形で追加の資料を事務局のほうから提出していただきました。

いかがでしょうか。追加のご質問等ございますでしょうか。

だいたい大きな流れとしては紀の川市と似たようなところが多いかと。

よろしいですか。

(発言するものなし)

○会長 じゃあ、こういうような情報も基にいたしまして、次の議題に移らせていただきます。よろしくご協力ください。

◎「学校のあり方に関するアンケート調査結果」等の確認及び意見交換

○会長 次は、議題 (3) といたしまして「学校のあり方に関するアンケート調査結果」等の確認及び意見交換ということで進めさせていただきます。

そのなかには 3 つの項目がありまして、通学距離、1 学年当たりの学級数、それから小中学校の 1 学級当たりの児童・生徒数ということにつきまして、アンケートを基にご議論をいただきたいと思えます。

では、㊦です。小中学校の通学距離について、委員の皆さま方にアンケート結果の確認と検討委員会の委員の皆さま方のご意見をお聞かせいただきたいと思えます。

まず、アンケート調査結果では、小学校の通学距離は 2 キロ以内あるいは 3 キロ以内という回答が多くなっていましたが、委員の皆さま方のご意見はいかがでしょう。特に小学校の育友会代表の委員さんで、自宅から学校までの距離や所要時間など、それに対する意見もございましたら是非この場でお聞かせ願いたいと思えます。どうぞご発言ください。

よろしいでしょうか。どうぞ奇譚のないご意見を聞かせていただければ。

だいたい他の地域でもそうですが、小学校ってこれぐらいかなという感じでしょうかね。

(発言するものなし)

○会長　じゃあ、またまとめて議論もありますが、続きまして中学校では 6 キロ以内あるいは 4 キロという回答が多くなっていましたが、皆さま方のご意見いかがでしょう。

特に中学校の育友会代表の委員さんで自宅から学校までの距離や所要時間など、それに対するご意見もございましたら是非現状等を含めてお聞かせいただきたいと思います。

4 キロ、昔でいうと 1 里ですね。

どうぞご発言ください。

○A 委員　スクールバスですが、中学校だとクラブとか色々ありますが、そういう時のスクールバスっていうのはどうなるのかな。

○会長　事務局どうでしょうか。

○事務局　中学校につきましては自転車通学となっておりますので、ほとんどが自転車で生徒の皆さんは通学されておりますので、スクールバスというのは現状では無いので、もし中学校自体が適正規模適正配置の対象となって 6 キロ以上超える場合はスクールバスの運行も可能と考えております。

以上です。

○会長　どうぞお続けください。

○A 委員　その 4 キロ、6 キロより遠い人はどうなりますか。自転車で行くのか。

○会長　どうぞ事務局お願いします。

○事務局　中学校でいうと 6 キロ超える部分につきましては、先程事務局のほうから申し上げたとおりスクールバスのほうが対象になってこようかと思えます。

○A 委員　そのスクールバスがね、クラブが終わるのを待つのですね。それは時間決めてその時間までクラブが間に合うようにするわけ。

○会長　お願いします。

○事務局　例えばですね、今荒川中学校がスクールバスで通ってる方がおられます。その場合、帰りの便は 2 便になっています。定時に帰る便とクラブ終わったぐらいの便で、2 便で送迎をさせていただいておりますのが現状です。そういう形になろうかと思えます。

○A 委員　わかりました。

○会長　よろしいですか。

ありがとうございました。

1 里から 1 里半って、私の時代はまだ里という言葉ありまして、小学校の遠足は 1 里が基準だったんで、すみません余計なこと。

どうぞお続けください。

よろしいですか。

(発言するものなし)

○会長　そうしましたら、小学生は 2 ないし 3 キロ、中学生は 4 ないし 6 キロぐらいの範囲ということでお考えいただいてよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

スクールバスの運行についてはどんな具合になりますでしょうか。お願いします。

- 事務局 先程と重複するところもありますが、国のスクールバス運行に対する補助基準といたしましては、先程から言わせていただいたとおり通学距離が小学校では 4 キロ、中学校では 6 キロを超える場合はスクールバスの購入等の補助金の対象となるということから、小学校では 4 キロ、中学校では 6 キロを超える場合はスクールバスの運行が可能となりますので、検討すべきということになっております。

以上です。

- 会長 ありがとうございます。

この今小学校、中学校も、小学校では 4 キロ、中学校では 6 キロを超える場合はスクールバスの運行ができることとなっているそうです。

いかがでしょうか。ご意見をお聞かせください。

かなり利便性も考えていただいていると思います。

(発言するものなし)

- 会長 では、また後程まとめるということで、小中学校の 1 学年当たりの学級数について、委員の皆さま方のアンケート結果の確認と検討委員会の委員の皆さま方のご意見をお聞かせいただきたいと思えます。

アンケート結果では小学校は 2 学級あるいは 3 学級以上という回答が多くなっていますが、委員の皆さま方のお考えはいかがでしょうか。2、3 学級、これは前から色々意見交換していただいて、あまり少ないほうがいいっていうのは。

よろしいでしょうか。どうぞ。

次に、中学校では 4 学級以上あるいは 2、3 学級という回答が多くなっていますが、皆さま方のご意見はいかがでしょうか。どうぞ。

大きい学校もありますけれども、やはり生徒さんあるいは児童の人格形成においても複数学級がということでございます。

よろしいでしょうか。

(発言するものなし)

- 会長 また複式学級が将来生じる、現在もありますけれども出てくるという可能性がありますけれども、複式学級については皆さんのお考えはどうでしょうか。

- B 委員 今の●●小学校の現状についてなんですけれども、児童数が少ないなか複式学級を実施している状況の中で、1 年生は入学当時は最初の学年であることから多分 1 学級でして、次は 2、3 年は確か複式、3、4 年、5、6 年という形で複式学級を実施してる状況だと思います。やっぱり児童数が少ないなかですので、地域的にも児童数が少ないですし子どもたち同士が顔見知りというか、小さい頃から知り合っている友達関係の中であると思うので楽しくというか、お兄さんお姉さん、お兄さんが下級生をみるって、小学校ではそういう形どこでもそうだと思うんですけども、人数が少ない分それがより濃いのかなというふうに感じます。

○会長 ありがとうございます。

今のご発言について事務局のほうから何かご質問等ありますでしょうか。

お願いします。

○事務局 すみません、ちょっとお聞きしたいんですけれども、当然その大きい学校、小さい学校、色々メリット・デメリットあると思うんですけれども。その●●小学校の方で、あくまで仮定の話なんですけれども、もし選択できるとしたら、例えば今の●●小学校ぐらいの規模の学校、もしくは大規模校、そういった2種類を通学距離は仮に同じとして、自由にそれを選択できる状況であった場合、どちらを選択する保護者の方が多い感じですかね。

○B 委員 ちょっと個々の保護者さんの考え方にもよるかと思うんですけれども、どうしても小さいなかで育ってきた、保護者もその地域の中で育ってきた保護者が多いかと思うんです。その保護者の中にはやはり自分の通っていた学校に子どもを通わせたいというふうに考えている保護者さんもおられるかと思えますし、やっぱり人数が少ない分急に中学校へ上がって大人数の中で集団生活を行うということに不安を感じて、初めから規模の大きい学校に通わせておられる保護者さんもおられたのかなと思うので、選択できるのであれば保護者さんの考えた方にもよると思うんですけれども。現に●●小学校の保護者の中で●●のほうへ通われている方もおられたかなと思います。

以上です。

○会長 どうぞご議論お続けください。

よろしいですか。

他にただ今のB委員のご発言に対しまして、その他のご助言等ございましたらご発言いただけますか。

よろしいですか。

(発言するものなし)

○会長 今保護者の方からお伺いしたんですけれども、教育現場の学校の先生あたりどうでしょうか。複式学級につきましてご意見お聞かせいただきたいと思います。

お願いします。

○C 委員 今本校●●小学校なんですけれども、1年生が単学級、2、3年生複式、4、5年生複式、6年生単学級というふうな感じで4学級でやっています。後々いったら、さっきの事務局の説明と少し違って、本校で計算したら令和7年度から完全複式、1年生・2年生が1つ、3、4年生1つ、5、6年生1つという合計3クラスになる予定なんです。1年生を含むと1年生・2年生併せて8人以下だったら複式になります。それ以外、1年生以外のところは併せて16人なかったら複式になるというふうな計算上、文科省の計算でそういうなかで法律で決まっているということになっているんです。

私自身教師生活三十数年で全ての町、岩出から含めて経験しました。全部で6町かな。850名の一番大きな小学校も経験しています。今42名今年色々あるんですけれども、そ

の学校の雰囲気によって、子どもたちの保護者の皆さんも子どもたちも今居てるところはやっぱり一番いいと思うのは確かだと思うんです。大きかったら大きかったで横の繋がりが広がります。

私、以前はわりと大きい学校にいたのですけども横の繋がりというのかな。ところがちっちゃい学校は縦の繋がり。もうすごくお兄ちゃんも関係なしに1年生の子、1年生から6年生皆顔見知り。先程 B 委員も言っておられたと思うんですけども、もうそれがほんとうに和気あいあいというのがあります。そして上の子が下の子の面倒を見ています。

例えば通学、4月・5月の頃は6年生の子が1年生のランドセルと一緒に持って、それで一緒に登校したりとか、そういうふうな思いやりの心も育つことができるというのがあります。小さい学校は、でも、逆にいうと、小さい学校で競争心はなくなってきました。もう皆和気あいあい、ずっとちっちゃい時から一緒なんで。

そういうメリット・デメリットは、それぞれの学校で大きい学校、中規模校、小規模校で色々あるので、何とも言えないのが事実なんです。

それで、ごめんなさいね。喋りすぎて。

保護者の意見も色々話しているなかで、やっぱり自分と先程 B 委員も仰ったと思うんですけど、ずっと育った学校がやっぱり大好きだという意見、そして地域の特色というのもありますね。

●●学校もそうやし●●学校もやっぱり農作業で色々自然な体験をいっぱい取り入れていくというのがあります。大きな学校でもそれをやるとこもあるのですけれども、自分の敷地内でもできます。そういうところとか色々、大きいところはもうやっぱり人数多いので話し合い活動とか、もう小さい学校からしたらやっぱりそれは羨ましいというのがあります。そういう面ではほんまにメリット・デメリット色々ということが私の意見です。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

事務局何かご意見あります。お願いします。

○事務局 C 委員にお聞きするのですが、この後1学級当たりの生徒の数はどうですかというのを議論していただくのですが、我々が学校訪問に行かせてもらった時に、先生と子どもの数で、あまりにも子どもの数が少ないと子どもも疲れるのではないかと感じました。我々が育った頃は大人数で多少よそ見をしていても先生とそう近くなかったのです。少人数だと絶えず先生と向きあっているということで、教師も疲れるかも分かりませんが子どもも疲れるのではないかという感じがするのです。

10人いたらよそ見をしていても大丈夫っていうのがあるんかしれないけど、1学級の中でどのくらい的人数がいたらそう疲れずにある程度の規模のクラスと同じような授業が受けられるのか。小学校では一日中一緒にいると思うので。そのあたりについて、長いあいだ教職をされている立場でどう思われるかちょっと教えてください。

○会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○C委員　　すごく難しいご質問だと思うのですけれども。

まず、教師側からですが、今1年生が6人います。6人をずっと見れるわけで、どこでつまづいているのか直ぐ分かります。だから、自然と私はずっと「明るく楽しく元気よくいこうよ」って言うてるんです。子どもたちにも教師にも。だから、何人ぐらいがベストというのは分かりませんが、でも自然と学力は勝手についてくような気はするんです。少人数の場合は、本当にもう直ぐ分かるんですよ。6人だからどこでつまづいているのか。でも、わりと大きかったら、それこそ40人学級、私経験ありますけど分からないんです。1時間で皆を見ようと思ったら、40人の意見を全部聞くことは不可能です。でも6人、8人、10人以内だったら全て聞くことができると、そういうことがあります。でもさっきも言ったように話し合いになる時には同じ意見しか出ないんですよ。色々な意見を吸収するというのはできないのですが、今実際にやっているのが、●●学校と一緒にオンラインで授業をしたり、そういうことをやったりと。他の意見を聞くためにオンラインを通じて違う意見、他の学校の子と一緒に話し合い活動をするっていうのも、また今後もそういうふうを考えています。

○会長　　ありがとうございます。よろしいですか。

その他に複式学級だけ取り上げた形になりますけど、ご意見いかがでしょうか。

(発言するものなし)

○会長　　そうしましたら、学級数につきましては小学校では2学級あるいは3学級以上、中学校では4学級以上あるいは2、3学級という回答が多くなっておりまして、それから複式につきましてもただ今ご意見を伺いまして、事務局としては複式に対する何か対応は考えてらっしゃいますか。将来的に。

○事務局　　今保護者のご意見と校長先生のご意見、複式が発生している学校の意見を聞かせていただいて、教育委員会としては複式については解消していく方向でいくいいのかなとは思っていましたが。ただ、その複式が良いのか少人数が良いのか。今、ご意見を聞かせていただいたなかでちょっと分かりにくい点もあるんですけども。完全複式に今度はなっていくと1年生・2年生の括り、3年生・4年生の括り、5年生・6年生の括りという形に将来的にはなっていく学校がかなり出てくるので、複式についてはその1時間の授業の中で先生を、ちょっと表現がまずいかもしれませんが先生が1年生にかかっている時間が通常の複式でない学級の半分しかかかれないので、その間自分達で話し合っただけで授業をしたら良いということになるのかも分かりませんが。委員会としてはやはり複式は解消していかなければならないのではないかとという見解です。

○会長　　ありがとうございました。

そういう方向に進めていただくそうです。

よろしいでしょうか。

(発言するものなし)

○会長　　そうしましたら、次ですけれども小学校・中学校の1学級当たりの児童・生徒数についてということで、アンケートの結果ですと小学校は21人ないし30人という回答が多くなっておりましたけれども、ここら辺が適正かなということでお考えいただけますか。あるいはもっとなのか、ご意見等いただけましたらご発言ください。

よろしいですか。

(発言するものなし)

○会長　　次に、中学校は21ないし30人という回答が多くなっております。これも今の時代ですと、だいたいこれくらいのクラス形成かなと思いますけどもね。

いかがでしょうか。どうぞご意見ご発言ください。

よろしいですか。お願いします。

○事務局　　1クラス当たりの児童・生徒数ですが、国も35人学級ということで段階的に進めていますので、36人を超えれば2学級になるので、その1クラス当たりの人数というのが18人、多くても35人です。

小学校6年生まで段階的にやっていきますが、多分中学校もそれに伴って35人学級になるのではないかと思います。文科省のほうで検討している状況です。最終的にはこのアンケート結果によく似た学級の人数になると思います。

以上です。

○会長　　ありがとうございます。

アンケート結果と将来色々な法律等変わってきますからね。教育予算も。

よろしいでしょうか。

(発言するものなし)

○会長　　そうしましたら、議題(3)といたしまして通学距離あるいは学級数、それから1学級当たりの生徒・児童の数ということについて、だいたいアンケートの結果が妥当かなというような、そういうことで落としどころとしてよろしいでしょうかね。

よろしいでしょうか。

(発言するものなし)

○会長　　決して私はそれ誘導しようというわけではございませんので、一応アンケートを重視して検討していただいております。

そうしましたら、今ここで一番大事な本日の議題ですけれども、だいたい今申し上げたような形で落としどころということにしますが、また何か今日お帰りになる途中であれを言っておけば良かったとか、これからどうなるのかなっていうそういうご意見等ありましたら事務局のほうに電話でもメールでも結構ですのでしていただいて、また事務局と相談いたしまして会議録の中に付け加えさせていただきます。あるいは、今日の議論にいてのご質問等ありましたら、是非事務局のほうに直接コンタクトしていただきたいと思っております。

よろしいでしょうか。

◎その他

○会長 では、一応今日の議題 3 番まで進みまして、議題 (4) その他ということで今日の会議全体を通しまして何かございますか。

よろしいですか。

お願いします。

○A 委員 全体でこうして色々検討していくのはいいのですが、何って言ったらいいか。生徒数でも 35 人を超えれば 2 学級にするけど、35 以内であれば 1 学級っていうふうに聞こえるのですが、35 人以内で 2 学級というのはしないのか。

○会長 事務局お願いします。

○事務局 今 A 委員が言われてるのは、そのアンケート結果を見た時に 1 学年 2 クラス以上で、1 学級の人数としたら 21 から 30 がよいという意見が多かったので、そういうような形に委員会としてはしていかないのかというご質問ですね。

○A 委員 35 人以下であってもね、その 2 学級が望ましいっていうアンケートが多かったからね。なので人数が 30 人であっても 2 学級にしたほうが今後の為にいいのではないかと。

というのが、今 1 学年が 1 クラスという学校が多いんで、何か揉め事があった時に 6 年間ずっと一緒にいなければならないが、2 クラスだったらクラス替えもできる。だけど、今そういう状況になったら転校するか不登校になるか、どちらかしかないわけで。だから、できたら 2 つ、人数が少なくてもやっぱり 2 つにして、その分の予算は市のほうで持ってもらって。そういうことを市独自でするようにしたらよいと思います。

○事務局 そうしたいのはやまやまなのですが、市で教員を 1 人雇うとすると将来にわたって支払う金額が約 4 億円ぐらいかかります。給料だけではなく社会保障制度の掛け金なども出てくるので。それが適切かどうかという議論はしていくべきだと思うんです。国・県で人件費は義務教育なので今はみてくれていますけれど、それを超えて少人数の学級編制をすれば、市がその負担をしなければならないというのは間違いないのです。

そうするかですね、今言ってる適正規模を、通学区域を変えたり統廃合をしたりして、国から貰うお金で教員数も賄えるような統廃合をしていくという、そんな議論が必要になってくるかと思うんです。どっちがいいかという、当然税金でその教員を賄うということになるし、組織の中に市費で給与を払ってる職員と県・国で給料を貰ってるのと 2 つの立場の教員が出てくるので、そこらの組織運営という点でもスムーズにいくのかという問題も出てくるんです。

なので、金のことを言うなよって言われれば、本当に理想の形に市でやろうと思っただけできないことはないです。

○会長 どうぞ続けてください。

よろしいですか。

○事務局 学校には教員定数がありますので、1クラス当たりに対して何人の教員が配置されるっていうのがあるのです。それを承知で、2クラスに分けると余分に必要人数は市の費用で賄ったらどうかっていう話なのですが、たくさんの加配教員、定数を越えてたくさんの教員を今配置していただいているのです。市で賄えるのだったら県の教員を減らすということにも繋がりがねないので、以前にもちょっと議員のほうから質問があったのですが、教員に関しては県に要望して行って加配教員をできるだけ増やしてもらおう。県から入れてもらえない介助員であるとか、医師・看護師を市が負担しながら入れていというのが紀の川市の教育の特色というふうに捉えてもらったほうがいいのかなど感じているのです。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

○A 委員 事務局にどうも分からないのだけど、アンケート結果で2クラスが大半を占めていたので、多くても少なくとも2クラスにするのかなと思ったんだけどそうではないみたいなんで。だったら、2クラス以上にしようとするのであればもう統合しかないわけでしょ。人数を集めるとなれば。

その辺は教育委員会としてどういうふうに考えているのか。そういう案があれば見せてもらって、検討したほうが話が早いと思うので。できれば教育委員会の方針を先に我々に提示していただいたら一番話がしやすいと思うんです。アンケート結果が多いから少ないからと言ってるが、何かもうひとつ結果に沿ってできないような感じになってるんで。

○会長 ありがとうございます。

事務局お願いします。

○事務局 委員言われるように、そのアンケートの多い意見を反映したシミュレーションは一応しています。ただ、それをしようと思うとかなりの統廃合をする必要があります。

数字だけで判断するのかわという問題もあるし、今の数字だけでいくと旧5町の枠を超えた形で統廃合せざるを得ない学校も出てきます。それは保護者なり市民に受け入れられるかという問題もあるし、色々な角度から見ていかないと、ただアンケート結果がこうだったのでこれだけの学校に減らしますというわけにもいかないの、次回そういうのを出して一度議論したいと仰っていただいたら出させてもらいます。色々な形のシミュレーションはできるとは思うんですけど、今さっき申し上げたように市で人を雇ってまでアンケートに沿った形にしようとは考えてないのです。やっぱり適正規模化を財政的な負担、人件費の財政的な負担をやっぱり国・県の定数に沿った形での統廃合というこのア

ンケートの数字に近いものにしていこうかなと、基本的にはそんな考えで教育委員会はいます。

○会長 ありがとうございます。

どうぞご議論お続けください。あるいは他の委員の方からご発言等ございましたらお願いいたします。

そうしましたら今の A 委員のご発言につきまして、また事務局のほうで少し検討してみてください。お願いします。

そうしましたら、その他よろしいでしょうか。

(発言するものなし)

○会長 そしたら、皆さま方からご発言ありませんので、事務局その他についてお願いします。

○事務局 今の A 委員の意見もありましたが、通学距離の問題、1 学年当たりの学級数、1 学級の人数を今日は議論していただいたんですが、問 15 番で学校をどうしていけばいいのかという問いに対して、このままでいいというほうが保護者・市民とも若干ですけども多かったんで、その学級数を 2 学級以上、1 学年当たり 21 から 30 という意見と、学校はこのまま維持したほうがいいのかというアンケート結果、もちろんわりと規模の大きな学校のアンケート回答数が多いのでそんな結果になっているというのもあるんですが、次は今日議論してもらったことと、問 15 でちょっと相反するような意見になっているのと、トータル的に議論していただきたいので、このアンケート結果、今日は資料もお渡ししているので、トータル的に次回ご検討お願いできたらと思っています。

後、小中一貫校と義務教育学校についての資料もお配りしています。小中一貫校についてアンケートはしてないですが、義務教育学校についてどう思いますかというアンケートちょっと説明不足で分からないというところもあったのですが、1 年生から 9 年生という 1 つのカリキュラムの中で学校として設置している義務教育学校についてもご議論を次回していただければと思っています。

○会長 ありがとうございます。

次回の会議はそのような方向で進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

次回以降のことにつきまして、何かご意見あるいは議論する上においてこのような情報がほしいというようなご提案がありましたら、ここでご発言いただくかあるいは事務局のほうにご連絡いただけたらと思います。

よろしくお願いいたします。

それでは、一応今日のその他を含めまして 4 つの議題につきましては済みましたので、閉会にあたりまして事務局のほうに進行をお願いいたします。

◎閉会

○事務局 会長、議事進行ありがとうございました。

それでは、閉会にあたりまして副会長から挨拶を申し上げます。

○副会長 皆さまご苦勞さまでした。

議論をすればするほど悩ましい問題だなんていうのは改めて感じました。後数回のこの会議でそういう方向・方針を本当にもうまく出していけるのかなというのが私の率直な考え、思いです。

なかなか感情的な部分もたくさんあると思うのです。自分の暮らした、自分の過ごした土地、それから学校というのもあれば、でも子どもたちが適正な規模の中で勉学できたらいいなというその理想的な思いと、そんな相反することが議論になってるので、これをどう答申していくのかというのはどういう方向を持っていけばいいのか私たちはちょっと難しいかな。特にもう回数が限られているというなかではなかなか見えてこないかなというのが私の思いです。

少ない回数の中でもできるだけ濃い中身にするように、私たちももう一度資料を読み込んだり、あるいは色々な情報を集めてまた会に持ち寄れたらと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

今日はどうもご苦勞さまです。

○事務局 ありがとうございました。

委員の皆さまにおかれましては長時間ありがとうございました。

次回の検討委員会は11月中旬の開催を予定しております。よろしくお願ひいたします。開催通知につきましては2週間前を目処にご案内させていただきます。

これをもちまして第5回紀の川市立紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会を閉会いたします。

本日はどうもありがとうございました。